

超域文化科学専攻・表象文化論コース 修士論文執筆要項 (2025年7月21日改定)

1. 中間報告会

論文提出を予定する者は、論文提出年度の夏（原則として6月中～下旬の土曜日）に必ず中間報告を行わなければならない。

2. 修士論文の備えるべき条件

- 1) 修士論文は初出のものに限る。ただし、既発表の文章を修士論文の一部として含むことは妨げない。
- 2) 修士論文は、原則として日本語で書かなくてはならない。ただし、特別な場合には、表象文化論コースで審査可能な外国語で書くことを許すことがある。そのためには、指導教員と協議のうえ、コース会議での合意を必要とする。
- 3) 日本語の場合、長さとしては、60,000～80,000 字程度（註、参考文献、図版などを除く）を目安とする。60,000 字より大幅に字数が少ない場合、減点の対象となる可能性がある。本文末尾に総文字数を明示する。日本語以外で論文を執筆する際には、長さに関し、指導教員に指示を仰ぐこと。
- 4) 縦書きでも横書きでもよいが、読みやすい文字サイズと体裁で印刷のうえ、仮製本以上の装丁をしてあること。紙の大きさは原則としてA4 とする。

3. 外国語要旨

論文には外国語（英語・フランス語・ドイツ語・ロシア語・中国語のいずれか）によるレジюмеを添付しなければならない。その長さは、A4 の用紙にダブル・スペースで2枚以内とする。ただし、外国語で論文を書く場合は、レジюмеは日本語で4,000 字以内とする。製本の必要はない。

4. 参考資料

必要があれば、参考資料を添付することができる。ただしこの場合、あらかじめ指導教員と相談してその許可を得ること。

5. 提出部数・提出方法

その年度の「修士学位論文提出要領」に定められた提出書類を教務課総合文化大学院チームに提出のうえで、それらと同一内容の論文本体・要旨（ほか必要書類）すべてのPDFをファイル転送サービスなどにより、表象文化論研究室に提出すること。教務課から指示される提出期限・時刻をくれ

ぐれも厳守すること。

6. 生成系 AI ツール使用に関して

- ・学術の世界だけでなく社会活動全般において、個々人のアイデアや独創性を尊重することが重要である。レポートや論文では、根拠となった出典を明記した上で、自分なりの考えを記載することが求められる。修士論文を提出する際に、生成系 AI ツールが生成した文章および翻訳（論文要旨を含めて）をそのまま自分の文章および翻訳として用いることは認められない。
- ・生成系 AI ツールによって生成された文章は、一見妥当そうに見えても、間違いが含まれていたり、利用者の意図には整合しない内容になっていることがある。生成結果を鵜呑みにするのではなく、自ら必ず吟味したうえ、適宜修正するなどした上で活用する必要がある。
- ・表象文化論コースでは、生成系 AI ツールの使用を一律に禁止しているわけではないが、使用しないことを推奨する。利用する場合には、必ず指導教員と相談したうえで、その使用箇所と使用理由を論文の脚注などに明記すること。

7. その他

上記以外の執筆上の注意事項に関しては、指導教員の指示に従うこと。